

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和5年

6月23日

校長 綿貫 芳人

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

『シンパシーとエンパシー』

校長 綿貫 芳人

今月は体育祭が開催され、たくさんの保護者と地域の方々に来ていただき感謝申し上げます。たくさんの観衆の中で、全校生徒による学校行事を行うことができたことの意義を改めて感じる事ができた日でした。それぞれの生徒に「挑戦」があり、お互い励まし、励まされ、それぞれの「勝利」を手にした時間となりました。

さて、表題の「シンパシー」と「エンパシー」の意味ですが、「シンパシー」とは、よく耳にする人も多いかと思いますが、「感情とともに自然に内側から湧き上がる同情心、共感」と呼ばれるものです。それに対して「エンパシー」とは、「相手の立場に立ってその人の感情を理解しようとする能力」のことです。

「ドラえもん」の中で「いつものび太はジャイアンにいじめられていてかわいそうだな」と感じる気持ちは、「シンパシー」です。一方、「ジャイアンは、なんであんなにいつものび太をいじめるんだろう」と考える能力を「エンパシー」と言います。みなさんは、なんでジャイアンはのび太をいじめるか考えたことがありますか。たとえ意見や関心の合わない他者であっても「なんでだろうか」と考えることは、とても周囲の人とうまくやっていく上で大切なことだと思います。

私の子供の頃の話ですが、こんなことがありました。私は姉と一緒に、母の日にエプロンをプレゼントしたことがありました。私たちは、きっと喜んでもらえると思っていたのですが、母の反応は全く意外なものでした。母は、喜ぶどころか怒ったのです。みなさんは、なんで私の母は怒ったのだと思いますか。背景がわからないので難しいと思いますが、想像して、わかろうとすることが大切です。

母は、「私にこれからもずっと家事を頑張れっていうつもりなの!？」と怒ったのでした。当時の母は、家事等を一手に引き受けていてとても大変だった頃でした。「プレゼントをあげたのに怒ることないだろ!」と言ってしまえば分断ですが、自分の時間を惜しみ、家族のために全力で家事をこなしている母の気持ち、立場を想像したときには理解することができます。

似たような話は、身の回りにあるように思います。そのとき、瞬時に「は~!？」とならずに、「一時停止」のボタンを心の中で押せるといいなと、自戒を込めて思います。ちなみに英語だと、「put yourself in someone's shoes. 人の靴を履け」というそうです。